

■ごあいさつ

新潟工科大学は、「キャリア形成教育の一層の充実」を平成20年度から進めてきています。そして経済産業省の「社会人基礎力養成事業」、文部科学省の「就業力育成事業」、「産業界のニーズに対応した教育改善事業」の採択と合わせて、キャリア形成教育の新たな取り組みを行ってまいりました。その流れの中で、情報発信の不足、成果の社会還元の不十分さ、の反省が浮かび上がってきました。そこでこのたび、キャリア教育 News Letterを発行し、関係する教育機関の皆様へ、新潟工科大学のキャリア形成教育に関する情報を提供させていただくこととなりました。皆様が進められる教育の中で、何かしらお役に立てることにつながりましたら、幸甚でございます。

新潟工科大学 就業力育成事業部会 部会長 村上肇

■新しい特任教授の就任



・新潟工科大学のキャリア形成教育は、専任教員と特任教員の連携で進めています。特任教授は平成22年度から1人体制で来ましたが、7/1に新しい特任教授が就任し、2人体制となりました。
・小林久隆(こばやし ひさたか)特任教授は、新潟県内の上場企業に長く勤め、技術・開発の経験が豊富です。製造業を志向する学生に、「現場の感覚」を伝えていきます。

■工学プロジェクト（学内企業実習）

通常のインターンシップと違い、企業人が大学に出向き、学生が1日社員としてグループワークを行う科目です。企業から与えられた課題を 学科・学年混在グループ で解決し、社会に出た後も活躍し続けられるための能力を身に付けることを目的とします。

◆実習前指導

(5/14、6/11、7/9;それぞれ14:40～16:10)

◆学内企業実習

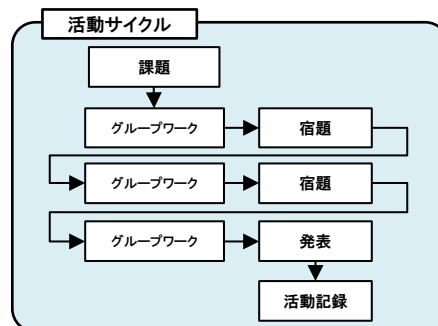
(9/11;9:30～17:30)

◆事後指導

(9/24;14:40～16:10)



・学内企業実習に向けて、この「工学プロジェクト」の科目で何を目標で行うのかを理解させ、ブレインストーミング、KJ法といった創成活動の基礎を教えます。
・「新潟県の特徴、特性を活かしたビジネスの提案」という課題について、3回通してグループワークを行いました。



■PBL実習

PBL(Project Based Learning;課題解決型学習)により、学生が教員から与えられた工学に関する課題を、日頃学んだ知識を活用してチームで解決していきます。

平成26年度は、6テーマを実施します。

- ①実用的な電子回路プリント基板の設計と回路製作
- ②災害時の活用を目的とした小型水力発電システムの開発
- ③地域活性化に役立つITビジネスプランの立案
- ④本学食堂排水からのn-ヘキサン抽出物質排出量の実態把握とその低減化対策の提案
- ⑤デザイン性に優れた防風フェンスの提案と効果の検証
- ⑥自律移動ロボットを用いた材の企画・開発

◆②災害時の活用を目的とした小型水力発電システムの開発

昨年度に引き続き、情報電子工学科・佐藤栄一教授による指導の下、柏崎工業高等学校電気科(防災エンジニアコース)及び地域の関係者と協同で進めています。

紹介の記事は、新潟日報6/13、朝日新聞7/3に掲載されました。

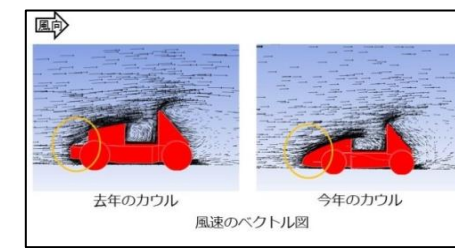


◆昨年度の取り組み



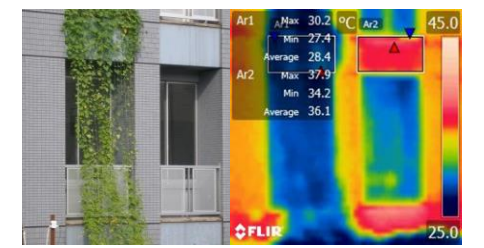
模型を使った柏崎市中心部の都市デザインの提案

柏崎市中心部の地域模型を作成し、その模型を使って中心部の都市デザイン上の課題を把握するとともに、柏崎市の将来あるべき都市空間像をワークショップを通して模型上でスタディし、最終的には約10年後の柏崎市中心部の都市デザインを提案しました。



学生フォーミュラEVのカウリングの空力最適設計及びFRPIによる制作

学生フォーミュラEVコンテストの車体で使用するカウリング部分の空力特性を数値流体力学によって検討し、最適な形状を見出し、製作しました。コンテストでは85台がエントリーしましたが、EV(電気自動車)クラスで総合第2位に、省エネ賞でCV(ガソリンエンジン車)クラスを含めて第1位となりました。



緑のカーテンによる学内の温熱環境の改善と学生への環境意識の啓発

緑のカーテンの育成計画(建物との調和、植物の選定、傾斜条件など)を立て、施行と育成(限られた人的資源と予算での施行(育成)方法)について検討しました。緑のカーテンの有無で温度がどのように変化するか、温度変化を一定の時間毎に測定して評価を行いました。

◆9月の予定

- ・工学プロジェクト(学内企業実習) 9/11
- ・職業実習(インターンシップ) 8/18～9/17
- ・工学プロジェクト(事後指導) 9/24

◆最後に一言(長谷川次郎 特任教授)



企業で人事を担当していたころから、人材育成について心がけていることがあります。{1. 人は生きているから進化する。だから「待てば良い」。2. 人に絶対はないから先のことはわからない。だから「期待すれば良い」。3. 人は能力を持っているからそれを引き出す。だから「信じれば良い」。4. 人は欲張りだから欲に火をつける。だから「刺激すれば良い」。} というものです。大学のキャリア教育の分野でも基本的には同じ視点をもっていたと思っています。

新潟工科大学 就業力育成事業部会(事務局:キャリア・産学交流推進課)

〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719

TEL:0257-22-8110 FAX:0257-22-8123 MAIL:career-sangaku@adm.niit.ac.jp

職業人育成事業HP:<http://www.niit.ac.jp/SHUGYO/>